

びわ湖マラソン2024ボランティア 参加してきました [公益事業報告]

3月10日皇子山陸上競技場をスタートし烏丸半島をゴールに開催されるびわ湖マラソン2024の医療救護スタッフとして、当士会から有志を募り、7名で参加してきました。活動は昨年に引き続き自転車AED隊と今年は新たに救護所での活動も行いました。

自転車AED隊の活動内容は担当エリアを巡回し重傷者を発見した場合はAEDで処置および胸骨圧迫、傷病者の救護所・救護車への誘導でした。幸いAEDを使う機会はなく終わることができました。

救護所では応急処置を希望するランナーや搬送された傷病者への処置や救急搬送の補助を行いました。配置はフィニッシュゲート横であった為、救護を必要とするランナーも多く、55名に対し低体温症や脱水症による症状、転倒や靴擦れなどによる擦過傷などの対応を行いました。

今回、傷病者の車椅子搬送中に主訴や症状の問診を行い、救護所到着時に痛みの部位や性質を医師に報告することで迅速な処置に繋がるケースがありました。医師の指示によりアイスパックや水分補給、保温準備、処置後の経過観察を理学療法士の知識を活用しながら活動を行え、昨年より行っている重症者のAED活動以外に、中等症や軽症者の対応にも理学療法士の必要性を強く感じる事ができました。

<救護所 中川竜徳>

三日月知事より「理学療法士さんも参加してくれてるんですね！ありがとうございます」とのお言葉を頂きました。



初めてマラソン大会にランナーではなく自転車AED隊として参加させていただきました。

私は消防士、看護学生、トレーナーの方々からなる4名のチームで30km地点から担当させていただきました。後半の一番辛くなってくるエリアで、痛みに耐えながら走るランナーが多く、AEDの出番は幸いにもありませんでしたが寒さもあってペースの落ちたランナーが低体温になる場面が多く見られました。チームで対応し改めてチームワークの大切さを実感できた大会でした。

<自転車AED隊 村崎陽一>



今回、びわ湖マラソンにAED隊のボランティアとして参加させていただいたのですが、前はランナーとして参加していました。この両方の体験は、視野を広げるいい経験となりました。私たちは30キロあたりで待機していたのですが、当日はかなり気温が低く、風も強い中の30キロの壁の真っ最中のランナーが一番辛い場面。大声で声援しつつ、AEDが活躍することがないよう祈るような気持ちでいました。幸いAEDは使う機会なく終わることが出来、胸をなでおろして大会を終えました。来年も何らかの形でこの大会にかかわりたいと思っております。

<自転車AED隊 松田 滋>

今回は、自転車AED隊として参加させていただきました。実際に救護をさせていただいたのですが、現場でしかできない経験をする事ができ、すごくやりがいを感じました。

ゴール地点に戻ってきた際に救護した方が最後まで完走をなされたところを拝見し、本当に良かったなと自分も嬉しく思いました。

来年も是非とも何らかの形で参加させていただきたいと思えます。

<自転車AED隊 徳田一樹>

今回2回目の参加となりました。前は自転車AEDとしてでしたが、今回は救護所で参加させていただきました。前回と比較して風も強く寒い日で、脱水、低体温、足を攣る方、転倒による擦過傷の方が多く見受けられました。救急要請の方も数名おられ、緊迫した場面もありましたが、医師、看護師の方々の素早い処置で救急搬送となりました。他職種のスタッフと活動する事ができ貴重な経験となりました。

<救護所 宇野ちひろ>

今回が初めてのマラソンボランティア参加で、ゴール地点の救護所で活動をさせていただきました。役割としては、軽症から中等症の肉離れやこむら返りの方への対応が中心でした。自分に何ができるか探りながらの活動でしたが、スポーツ現場ならではの他職種とのチーム活動はとても良い経験となりました。来年も是非参加したいと思えます。

<救護所 辰巳麻美>



雪化粧の比良山、少し肌寒い上に快晴。つまりは絶好のマラソン日和となった「びわ湖マラソン2024」。

自転車AED隊として、消防士、トレーナー、看護学生とチームを組み、30キロと折り返し後の40キロ付近で待機しながら精一杯の応援をしてきました。

スタミナ無尽蔵な前半ランナーの後に続く中盤以降では脱水や下腿痙攣の方が多発し、メディカルサポートとして水分提供やペース配分提案などを行いました。幸い、AEDの出番はありませんでしたが、「AED」と書かれたビブスを見て「ありがとう～」と声掛けして頂けるランナーさんも多数。安心を提供できている実感に妙な幸せを感じた一日でした。ありがと～。

<自転車AED隊 濱田康夫>